

おはようございます。まず冒頭に、今回の震災・津波で被災された方々に、心からの哀悼の意を表しますとともに、今なお困難と闘っている方々に、お見舞いを申し上げたいと存じます。また、新入生の皆さん、在校生の皆さん、あるいはご家族も含め安否が確認でき、皆さんと一堂に会しこのような入学式ができましたこと、本当に嬉しく幸せに思っています。

さて、日本分析化学専門学校第30期生にあたります160名の新入生の皆さん、ご入学誠におめでとうございます。日本分析化学専門学校を代表し、心から歓迎の意を表します。合わせて、ご父兄の皆さんにも心からお喜びを申し上げます。また、本日大変お忙しい中ご臨席をいただきましたご来賓の皆様方には、高いところからではございますが、衷心より厚く御礼申し上げる次第であります。

まずは、30回に亘る入学式の中で、今回、初めての出来事がありましたのでご報告を申し上げます。それは、親子で入学という事例が初めてできたことです。さらに、本校卒業生であるお母様は、20数年経過した今も、卒業時に就職したところで継続して勤務され、現在も化学の技術者として活躍されています。本校にとって理想の形でのご入学です。また、教職員にとっても励みになる嬉しい出来事でした。

本題です。私事で恐縮ですが、私は学生から社会に出て初めて仕事についてのが、ちょうど25年前、今日お越し頂きました中山太郎前衆議院議員の秘書でした。中山太郎先生は、外務大臣や国務大臣・当時の総理府総務長官をお務めになられた高名な政治家でいらっしゃいますが、実はもともとは小児科のお医者さんでした。先生が外務大臣当時の海外出張の折には、私も随行させていただく機会がありましたが、「主治医を連れて海外出張」と当時冷やかされたものでした。

そんな中山太郎先生が医者か政治家かを選択しなければならない分かれ道に経った時、「医者は目の前の患者は救えるが、政治家なら世界の人を救うことが出来る」という言葉で決断をされ、近年では、臓器移植法の成立を始め、本当にたくさんの人の命を救う仕事をされたのであります。

もう一人、明治時代に医者という道から化学者になった有名な一人に、高峰讓吉という方がいらっしゃいます。高峰讓吉は16歳の時、医者になるため大阪医学校で学び、医者になるためには化学知識も必要だということで、今、日本分析化学専門学校がある天満からほど近い、舎密局と呼ばれた化学の学校で化学を学びました。

そうするうちに、「医者は一人一人の患者を救うが、化学は一度にたくさんの人を救う」と考え、医者から化学者へと志を変えたのであります。

そして100年以上経った今も、当時奇跡の薬と言われた止血剤に使われるアドレナリンの発見。胃腸薬、消化剤として使われるタカジアスターゼの発見。今も私たちの生命は、100年以上前の化学者の発見によって支えられているといっても過言ではありません。

中山太郎先生も高峰讓吉も政治家と化学者との違いこそあれ、「たくさんの人を救うのだ」という志を持って仕事を選び、そしてそれを実現されたのであります。

ちなみに、高峰讓吉は三共という医薬品会社の初代社長にもなられました。そして、現在、三共という会社はいくつかの変遷を経て第一三共という会社になり、現在、第一三共の社長は、中山太郎先生のご子息が務められているという驚くべきつながりもある訳であります。

前置きが長くなりましたが、日本は今、危機的な状況に陥っています。しかし、日本人は数々の困難から、私たちの祖先が志を持って立ち上がりながら、世界に類のない2000年以上続く国になっているのであります。

日本分析化学専門学校に入学した諸君は、今、まさに化学者への一步を踏み出しました。皆さんが身につける化学の知識、技術は、皆さん自身が生きていく道であると同時に、さきほど申し上げました通り、「たくさんの人、たくさんの国、そしてかけがえのない地球を救う技術」にもつながります。ここで学び、ここで学んだことを活かし、100年後の人類を救っているかもしれません。

期せずして今年2011年は世界化学年。キュリー夫人がラジウムとポロニウムを発見した功績でノーベル化学賞を受賞されたのが1911年。そこから100年を記念し、今年の世界化学年とされています。

今、日本にとって化学者が本当に必要なこの時、世界化学年であるこの時、日本分析化学専門学校が創立30年を迎えたこの時、こんなたくさんの偶然が重なった年に、化学者を志し皆さんが本校に入学されたこと。それは偶然ではなく、必然という使命を帯びて入学されたのだと私は考えています。

幸い皆さんはその環境があります。皆さんを支えるご両親、友人、そして我々日本分析化学専門学校の教職員がいます。前向きに取り組む皆さんを精一杯サポートします。そして、同世代だけではなく、出身地も経歴も年齢もさまざまな人たちがここに集ったという、1億2千7百万分の160という奇跡の出会いを大切に、2年制学科の入学生は2年後、4年制学科の入学生は4年後、自分が日本を復興し、世界を支えるのだという大きな気構えを持って、ぜひ勉学に励んでいただくことをお願いしたいと思います。

最後になりましたが、今ここで、本校に入学したことが、皆さんにとって間違いのない選択であったと卒業時に証明すること宣言し、私の式辞といたします。

ともに頑張りましょう！ありがとうございました。